

# 郡上農林事務所の普及活動状況

令和2年12月25日現在

## 今月の重点活動

### ■スマート農業 郡上市農業振興大会において普及活動の成果を発表

12月5日「日本まん真ん中センター」において、郡上市農業振興協議会の主催により、県議会議員、市議会議員、農業関係者関係団体等を参集し、郡上市農業振興大会が開催された。

大会では、各農業団体の活動報告に加え、郡上農林事務所からは「ひるがの高原だいこんの産地維持体制の確立とブランド力の向上」と題して、日ごろの普及活動の成果を発表した。

発表では、本年度から取り組んでいるスマート農業実証プロジェクトにも触れ、現地の状況や生産者の声をスライドを交えて紹介した。

農業普及課では、今後プロジェクトの成果をまとめ、農業者等も交えて実証した各技術を評価し、その普及に取り組む。



【普及活動の成果を発表】

## 多様な担い手づくり

### ■農福連携 郡上地域農福連携会議を開催

12月11日、中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用部会」の研修会に併せて、郡上・中濃・可茂農林事務所が連携し、各地域の農福連携会議を合同で開催した。

これに先立ち、11月2日には農業普及課を事務局として、郡上地域農福連携会議を設置しているが、今回が初めての顔合わせとなることから、改めて設立の目的や今後の活動方針について説明を行った。

その後、これまでの農福連携の取り組み状況や県内の優良事例について、ぎふアグリチャレンジ支援センター農福連携推進室より報告があった。

今後、活動を深めていくことにより情報共有を図り、一層の農福連携を推進していく。



【農福連携会議の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■夏秋トマト 販売実績検討会を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では、12月15日に郡上総合庁舎で販売実績検討会を開催し、成績優秀者の表彰と今年度の実績並びに次年度に向けての検討を行った。

今年度は、7月の長雨や8月の高温によって管理が難しい時期もあったが、台風の被害もなく比較的管理しやすい年となった。

表彰では、就農1年目の新規就農者が単位収量部門のトップになり、他の新規就農者のへの励みになった。一方で、検討会では部会の平均単収が昨年をやや下回ったことや部会内の単収格差拡大など問題点も取り上げられた。

農業普及課では、検討会の中で月毎の総作業時間からみた各作業の配分割合を検討すること、作期の短い作型を組み合わせることで、作業の省力化を図り単収や収量の向上を目指すこと等を提案した。



【表彰を受ける新規就農者】

### ■夏だいこん 岐阜県GAP確認制度の農場審査を実施

農業普及課では、農業者へのGAPの普及を進めており、一昨年度よりGAP全般の理解促進や農場レイアウト等の指導、岐阜県GAP確認制度への取り組み支援を行ってきた。

12月上旬には、岐阜県GAP確認制度に取り組むひるがの高原だいこん生産出荷組合の生産者3戸において、農業普及課職員による維持審査を実施した。当組合での岐阜県GAP確認制度における維持審査は今回が2回目であり、どの生産者もスムーズに審査を終えた。

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、来年度よりぎふ清流GAPへの取組みを検討しており、農業普及課では引き続きGAPの実践に向けて支援を行っていく。



【職員による農場審査】

### ■水稲 米・食味分析鑑定コンクール国際大会の入賞を報告

本年11月に静岡県で開催された、国内最大規模の米の食味コンクール「第22回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」において、国際総合部門で郡上市白鳥町の小松隆一さんが特別優秀賞を受賞され、12月23日に郡上総合庁舎にて農林事務所長に報告した。

小松さんは土づくりを重視し、これまでも同コンクールで2度の特別優秀賞を受賞するなど、全国規模のコンクールで入賞されている。次年度は連続入賞と併せて、最上位の金賞を受賞することを目標に掲げられた。

農業普及課では関係機関と連携し、食味向上に意欲のある農業者の支援や郡上産米の良食味産地としてのPRを継続していく。



【受賞された小松氏】

### ■花き フランネルフラワー「ファンシーマリエ」出荷開始

郡上市内では、2戸の生産者が切花用フランネルフラワー「ファンシーマリエ」の出荷に取り組んでいる。

市内で生産されるフランネルフラワーの切花は非常に花持ちが良いと市場からの評価も高い。また中山間地の気候を活かし出荷時期をずらすことで、有利販売につなげており、今年度は12月上旬より本格的な出荷が開始され、販売単価も高値であった。

農業普及課では、農業技術センター等と連携し、栽培管理に関する指導を行うとともに、生育等調査を定期的実施しており、今後もきめ細かな栽培管理指導を通じて、中山間地域における経営品目としての確立を目指す。



【現地巡回の様子】

### ■南天 令和2年度の出荷を終了

12月10日で郡上八幡南天生産組合は、令和2年の南天の出荷を終えた。今年は7月の長雨で記録的な不作となり、早々の収穫終了となり不本意な結果となった。

年明けには反省会と総会が予定されており、この場で郡上南天の再起を期すこととなる。

南天は、郡上地域の重要な特産品であり、正月の縁起ものとして底堅い需要があることから、農業普及課では、異常気象に少しでも対応できるような技術支援を提案していく。



【調整作業中の南天】